こころNEWS　認知症疾患医療センター合同研修会

平成 28 年 2 月 21 日（日）、山口市の県総合保健会館で約 450 名の参加を得て、認知症疾患医療センター研修会を行いました。この研修会は医療・福祉専門職等を対象に毎年実施しており、県内の認知症疾患の保健・医療水準の向上を図ることを目的としています。今年度は、新たに柳井医療センターが認知症疾患医療センターを開設され、6 カ所のセンターによる合同研修会となりました。

基調講演 1 は、長野県岡谷市民病院の天野直二院長が「認知症を理解する―地域で支えて行くために―」と題して講演されました。4 大認知症について診断の歴史を紐とかれ、参加者からは歴史については聞く機会がなく、興味深い内容で勉強になったと感想が寄せられました。

基調講演に続いて、各認知症疾患医療センターから活動報告があり、センターそれぞれに情報発信や地域啓発、連携強化に取り組んでおられる様子が報告されました。各センターともに MCI（軽度認知機能障害）レベルでの受診が増えており、マスコミ等で認知症に関する話題が取り上げられることの影響もあるようです。

柳井医療センター認知症疾患医療センターでは、自動車運転に関するアンケートを外来受診時に実施したとの報告がありました。かつて免許を所持していた人を含めると、回答者の約半数が期限切れとなったり返納されていました。現在運転中の方では、半数が MCI で半数が認知症という診断結果を発表され、参加者からも大変興味深かったとの感想がありました。

基調講演 2 は、佐賀大学医学部長、神経内科教授である原英夫先生が、「若年認知症と認知症疾患医療センターの役割」と題して、若年認知症の原因や病態などについて詳しくお話いただくとともに、利用できる制度や社会資源について話されました。

診療のご案内

外来診察担当医						
	初診		再診			
月	（物忘れ、一般） 兼行　浩史	（一般） 角田　武久	兼行　浩史	藤田　　実	磯村　信治	宮野　康寛
火	（児童・思春期、一般） 村田　由紀		加来　洋一	青島　真由	三好　俊彦	
水	（児童・思春期） 加来　洋一	（高次脳） 兼行　浩史	兼行　浩史	村田　由紀	新造　竜也	青島　真由
木	（アルコール依存、一般） 藤田　　実	（一般） 新造　竜也	兼行　浩史	加来　洋一	角田　武久	宮野　康寛
金	（物忘れ、一般） 宮野　康寛	（児童・思春期） 青島　真由	加来　洋一	藤田　　実		

初診・再診とも予約制となっております。予めお電話でご予約されてご来院ください。
外来直通電話：０８３６-５８-２３２７

交通のご案内

お車 / 山口宇部道路「宇部東 IC」より丸尾方面へ約 5 分
電車 /JR 宇部線「丸尾駅」より徒歩約 15 分
バス / 宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩約 10 分

地方独立行政法人山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター

〒 755-0241　山口県宇部市東岐波 4004-2
TEL：0836-58-2370（代表）
　　：0836-58-2327（外来直通）
FAX：0836-58-6503

こころの医療センター　検索
http://www.y-kokoro.jp/

山口県立こころの医療センター広報誌
春号
2016 年

こころだより

～病院理念～
県民の心の健康を支える
質の高い医療の提供

特集　急増する「うつ病」の実体とは？

全職員を対象とした救急蘇生訓練を実施しました

認知症疾患医療センター合同研修会

＊精神科病院で看護師は何している？
＊「春の感染症」について
＊職員募集のお知らせ
＊こころ NEWS　　＊診療のご案内

編集：広報委員会
発行：山口県立こころの医療センター
　　山口県宇部市東岐波４００４－２
　　TEL：0836-58-2370（代表）

特集！

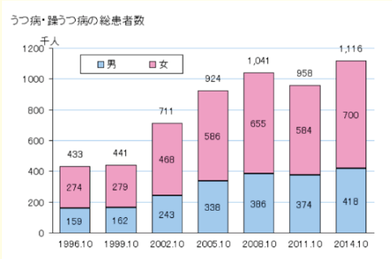
急増する「うつ病」の実体とは？

院長　兼行（かねゆき） 浩史（ひろし）

昨年末、厚生労働省が３年ごとに行う「患者調査」（2014 年）の結果が公開され、「うつ病」・「躁うつ病」で治療中の患者数は全国で 112 万人と再び増加に転じました。今回はこの調査結果を少し掘り下げて、急増する「うつ病」の実体を考察してみたいと思います。

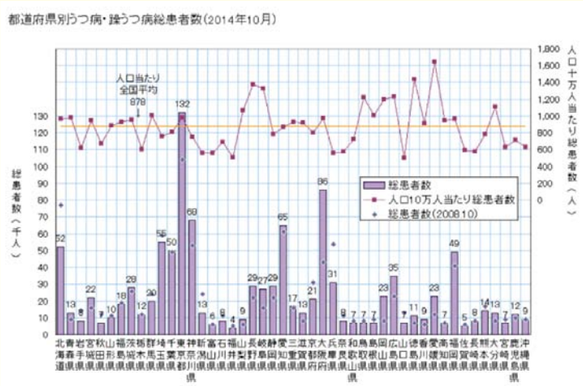
1）「うつ病」・「躁うつ病」患者数の推移

図のように、2008 年に 100 万人を超えて、その急増が大きく報道されましたが、2011 年は東日本震災の直後ながら減少し、今回の再増加に至りました。この 15 年間での急増の原因には諸説があり、①職場の合理化・効率化、人間関係の希薄化、家族機能の低下など高ストレス社会、②メンタルヘルス対策など「うつ病」の啓発による軽症者の受診増、③新しい抗うつ薬の登場に伴う服薬対象者の拡大、などがあげられます。



2）都道府県別の「うつ病」患者数の変動（山口県が全国最少に）

急増する「うつ病」の実体に迫る上で、「患者調査」の都道府県別の患者数とその３年間の変動に大きなヒントが隠されています。患者数は、実に不思議な変動を示しており、今回の調査で３年前と比べて、大阪府で２倍に激増し、東京都、神奈川県でも２割以上増加する一方、北海道、京都府、兵庫県では３割以上減少しています。特筆すべきは、我が山口県では４割以上減少し、人口 10 万人当たり患者数 500 人と全国で最少の県に躍り出ました（折れ線グラフ）。



3）「うつ病」の実体とは？

このような不思議な変動は、前の３年間にも認められ、とどのつまり病院・診療所を受診して「うつ病」と診断される患者群は、各地域の諸事情に大きく影響をされることが分かります。例えば、都道府県で差異がある保険診療の審査ルールも、病名のつけ方を変動させていると推定されます。したがって、急増する「うつ病」の実体には、①精神科医療が治療するべき中核的な疾患群、②心理社会的要因やパーソナリティ要因が深く関与する軽症群、さらに③うつ病症状を抱えているとはそもそも言えない群、と境界不明瞭に広がっていると考えられます。

「うつ病」が急増する都会では、ストレス社会で不適応となり沈んだ気分で診療所を訪れると、数分の診察で「うつ病です」と告げられ、抗うつ薬を持ち帰らされる、そんな流れ作業の横行が危惧されます。一方、①の中核群に含まれる下位分類である「双極性感情障害」は、全国で 11.8 万人（2011 年）から 21.4 万人（2014 年）と倍増しており、適正な診断がなされる群が増えている可能性も推察されます。

精神科医療は密室性が高いため、いかに良質で均てん化した医療を提供するかは常に重大な課題です。当県では、県・市医師会や大学医局と連携して、「うつ病」への適切な診断・治療の研修会等を重ね、医療体制の質の向上に努めてきました。今後も自戒しつつ、適切な「うつ病」医療のあり方を真摯に模索して行きたいと考えています。

精神科病院で看護師は何している？

精神科病院の看護師はどんな看護をしているかご存じない方、想像がつかない方が多いのではないでしょうか。今回はこころの医療センターの看護師の活動の一部をご紹介したいと思います。

現在、社会的環境の変化により、安全で安心できる、かつ効果的な看護を効率的に提供することがこれまで以上に看護師に求められるようになっています。また､様々な職種がそれぞれの専門性を発揮しながら治療を行うことが求められています。当院においても、患者さんがよりよく生きることを支えられるように多職種で治療を行っています。その中で看護師は患者さんに適切かつ安全で安心できる看護を提供するよう日々努めています。

具体的には、患者さん自身が納得して治療を受けることができるように援助します。そのためには、患者さんの思いを聞きながら、症状や苦痛を緩和し、病気との付き合い方、他者との付き合い方、薬を続けるための方法、生活支援等々患者さんと一緒に考え、目指す目標に近づくよう看護をしています。また、症状のために日常生活が困難な状況に付き添い、見守りや援助を行う、あるいは患者さんと共に過ごすことをしています。生活支援には精神科ソーシャルワーカーが関わります。その過程において看護師は、患者さんが実際に使う交通手段を用いて一緒に地域に出かけ自宅や施設を訪問したり、ショッピングに行ったり院外での活動も行っています。時には、他の職種やご家族の方とも一緒に活動を行うこともあります。また、患者さん、ご家族の方は様々な不安を抱えておられます。その解決に向けた援助や、ストレスの対処が難しい方へはストレス対処方法などを一緒に考えて実践しています。院内では、健康のためにも良く手軽にできるウオーキングが一番人気のようです。

看護師は患者さんの最も身近なところに居ます。これからも患者さんに寄り添いながら，患者さんがよりよく生きることを支えていけるよう日々精進していきたいと思います。

看護部長　岩重（いわしげ） 由美（ゆみ）

「春の感染症」について

麻疹（はしか）・風疹（三日ばしか）

人の移動や環境の変化の多い、春先に流行

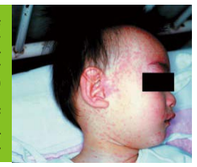
麻疹（はしか）　10 ～ 30 代の罹患者が増えています！

何故？

ワクチンを受ける子供が増え、麻疹の子供に接する機会が減るため、免疫が強化されない

そして、徐々に免疫が弱くなる（ワクチンによる免疫は約 10 年、麻疹に罹れば免疫は一生涯）

症状の特徴



顔面の発疹

風疹（三日ばしか）　発生の報告の９割が成人です！

妊婦が風疹に罹患すると先天性風疹症候群（白内障、緑内障、難聴、心臓の奇形など）のリスクがあるため、

妊娠前には必ず、夫婦そろってのワクチン接種を！

症状の特徴

全身の発疹

耳の後ろのリンパ節の腫脹

おまけ

インフルエンザＢ型、Ｃ型をご存じですか？

Ｂ型・・・流行は２～３月下旬（Ａ型は 12 ～１月、今年は遅いですが・・・）
　　高熱が出ないことも、お腹の調子が悪くなることもあって、見逃されやすい

Ｃ型・・・流行は通年であるが、季節の変わり目で体調を崩す人の中に含まれている
　　基本的に５歳未満の子供がかかる、風邪として扱われることが多い
　　一度かかれば、免疫ができ、次にかかることはない

感染管理認定看護師　戸川（とがわ） 桂一（けいいち）

職員を募集しています

平成２９年度の山口県立病院機構職員（助産師・看護師）を募集しています。

詳しくは、山口県立病院機構本部事務局のホームページ（http://www.ypho.jp/）をご覧になってください。また、当院事務部窓口でも受験案内・受験申込書をお配りしております。

お問い合わせ先：地方独立行政法人山口県立病院機構本部事務局　TEL/0835-28-3311